

リンクリゾルバ導入後の現状と課題

ーナビゲートが困難な事例からの検討ー

山崎むつみ

静岡がんセンター医学図書館

リンクリゾルバ；文献デリバリー；論文単位；Open Access

【背景】

がん専門病院・研究機関である静岡がんセンター医学図書館（以下、当図書館）では、2002年開設時から電子ジャーナルを率先して購入してきた。2009年には文献への簡便・容易・迅速なナビゲート支援のためリンクリゾルバを導入し、その利用は定着している。しかし、外部文献手配の前に図書館担当者（以下、担当者）が行う再調査を通じて、リンクリゾルバ設定だけではナビゲートしにくい状況があることが明らかとなった。

【目的】

本研究では、当図書館のリンクリゾルバでナビゲートしにくい文献について、その現状を明らかにするとともに、利用者にとって、簡便・容易・迅速に原文献を入手できること、すなわち、電子資料への着地サービスへの課題について検討する。

【対象と方法】

2012年4月から2014年2月において、当図書館のリンクリゾルバでナビゲートできず利用者が外部手配を希望した文献のうち、担当者の再調査によりWEB上から文献入手できた事例約100件を対象とした。これらの入手方法、入手源、PubMedでのアイコン出現状況、および、リンクリゾルバでナビゲートできなかった理由について調査した。

【結果】

多くの場合は、Google Scholar, Googleによる検索により、文献を見つけることができた。これらの文献は、論文単位で、出版社や著者所属機関のページ、SNS等で公開されているものであった。また、担当者やベンダーによるリンクリゾルバの設定ミスやOpenURLの問題だけではなく、出版社以外の場所における論文単位での公開のため、サーチエンジンでしか文献へのナビゲートができない場合があることが明らかになった。

【考察】

資料の電子化は、雑誌単位のみならず、論文単位でのアクセスを容易にした。しかしながら、Open Accessとして出版社以外の場所から公開されている論文は見つけにくいことがある。今後はそのような論文へのナビゲートシステムの充実に加え、ナビゲートされやすくなるように公開側にも課題があると考えられた。

また、無料公開論文であっても、原文献へのナビゲート、すなわち着地を導くところまでが電子化時代の文献提供サービスの役割であると提案する。